

一本書わ浄土宗少年會の教科として編纂したるものなり。之を習得せば
教會衆動行法わ勿論、古來より勤め來れる古式の勤行も自由に修し得

少年會の教科としてわ餘りに經文類多きに過ぎたりと思ふものもあら
ん。さあれ、本書わ浄土宗佛眼教會少年部においての數年來の實驗に
鑑み、その他眞宗少年會の制度及其結果等を参照し編纂したるものな
れば實行の便は到りて意のあるところを領解し得られん。
一諸經文を誦讀國譯するに古來人によりて區々なり。本書わ阿彌陀經及活
び光明懺悔文わ國文三部聖典に據り、その他概ね大雲點に順ふ。
一諸經文に句讀點を附するわ原少年少女をして讀み易からしむる爲め
み。而かも尙、韻りに爲すべからざるを思つて多くわ大雲點の句讀に
基き、阿彌陀經わ合讀の科文に遵據す。
一本書わ假名を附するにあたりて國文典の法則及び文字固有の發音に隨
わす。少年少女間最も親しき少波式に倣い總べて現在誦經又わ唱歌
する發音の通りに附す。
一陀羅尼の音わ古來地方によりて原音を謬り、而かも通例となれるもの

40 12 14
内交

あり。されど、陀羅尼わその音聲の中に深義を有するものなれば猥りに現在流布の音にのみ依憑しがたければ原音を片仮名にて附し、地方習慣音の一部を平仮名にて添え、兩仮名合して唱え得らるゝ様になしおけり。

一 大師の御詠、一枚起請文の如きわ原と國文なれば語格の關係上猥りに仮名文字を現在發音通りに變更すべからざれば原書通りの仮名を告し現在發音通りの仮名を附記す。

一 唱歌わ從來我宗に一定のもの無し。止むなく浄土宗佛眼教會少年部に使用しおれるものを採用せり。御詠の外わ後來名家の作歌を得て換ゆる豫定なり。

一 曲譜わ「佛眼」を除きて他わおうく梅岡樞堂の撰譜若くわ作曲にかゝる。就中三尊禮わ地方によりて調節を異にするが如き現狀なれば異論も定めて多かるべし、今後ますます研究を加えて訂正することあるべき筈なり。

一 右の外、加減又わ訂正を要する箇處もあるべし。實驗後の報告を得て再版の時に完璧を期す。

おまじよう

浄土宗少年會本部編纂

教會のおつとめ

はじめに

我昔所造諸惡業
從身語意之所生

唱

懺悔

皆由無始貪瞋癡
一切我今皆懺悔

歌

つぎに載せある元祖圓光大師様の御詠を歌います

教會のおつとめ

御 詠

(ト)調四拍子

	2 - 2 7	6 5 3 2 -	3 5 6 5
(1)	つ - き -	か - げ - の -	い - た - ら - ぬ
(2)	シ - バ -	ノ - ト - ニ -	ア - ケ - タ - レ
(3)	い - け -	の - み - づ -	ひ - と - の
	2 7 6 5	3 5 6 5 3	2 2 1 2 -
	さ - と - わ -	な - け - れ -	ど - - も -
	カ - カ - ル -	シ - ラ - ク -	モ - - ヲ -
	こ - こ - ろ - に	に - た - り -	け - - り -
	6 5 6 5 6	1 2 6 5	3 5 6 -
	な - が - -	む - る -	ひ - と - の -
	イ - ツ - -	ム - ラ -	サ - キ - ノ -
	に - じ - -	り - す -	む - こ - と -
三	2 1 3 5	6 5 3 5 3	2 1 2 -
	こ - こ -	ろ - に - ぞ -	す - む -
	イ - ロ -	ニ - ミ - ナ -	サ - ン -
	さ - だ -	め - な - け -	れ - ば -

御 詠

月影のいたらぬ里はなげれども
 なかむる人のこゝろにそすむ
 柴の戸にあけくれかゝる白雲を
 いつむらさきの色にみなさ舞
 池の水人のこゝろに似たりけり
 にこりすむこと定めなければ

つぎに 祈 願 (起立のまゝ)

南無西方阿彌陀佛 (教師)

哀愍して我を覆護し、法種をして増長せしめ、
此世及び後の世、願くわ佛常に攝受したまえ。

(一同)

つぎに 式 辭

教師起ちて一同に對い、極めて莊嚴に、

極めて簡短に法話を爲す

つぎに 四弘誓願

衆生無邊誓願度

煩惱無邊誓願斷

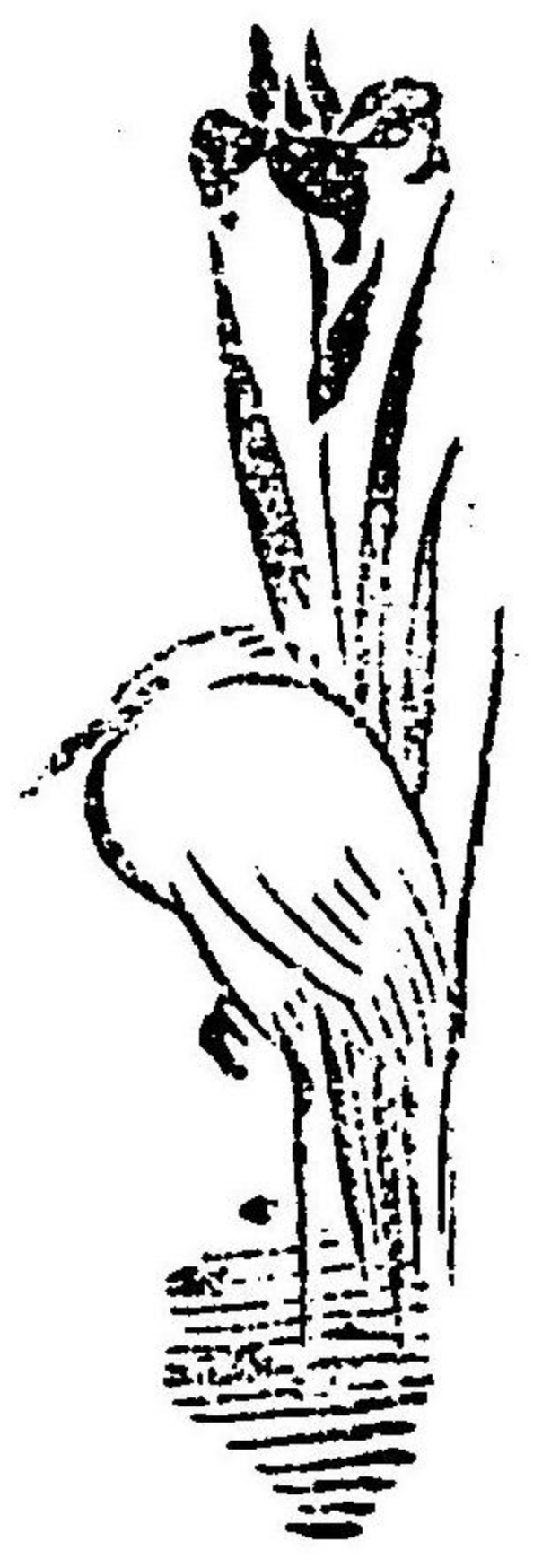
法門無盡誓願知

無上菩提誓願證

自他法界同利益

共生極樂成佛道

(畢リ)



毎日のねつとめ

◎朝のおつとめ

はじめに 開經の偈

無上甚深微妙の法わ、百千萬劫にも遭い遇う
こと難し、我れ今見聞受持することを得たり、
願くわ如來眞實の義を解せん。

つぎに 光明歎徳のお經

ほとけ阿難に告げたまわく無量壽佛の威神光

明わ最尊第一にして諸佛の光明能く及ばざる
ところなり。或わ佛光あり百佛世界或わ千佛
世界を照らす要を取りてこれを言わば乃ち東
方恆沙の佛刹を照らす南西北方四維上下も亦
また是のごとし或わ佛光あり七尺を照らし或
わ一由旬二三四五由旬を照らす是の如く轉倍
して乃至一佛刹土を照らす。是のゆえに無量
壽佛をば無量光佛無邊光佛無礙光佛無對光佛
燄王光佛清淨光佛歡喜光佛智慧光佛不斷光佛

難思光佛無稱光佛超日月光佛と號したてまつ
る。其れ衆生ありて斯の光りに遇わんものわ
三垢消滅し身意柔順に歡喜踊躍して善心生ぜ
ん。もし三塗勤苦の處にありて此の光明を見
たてまつらばみな休息を得てまた苦惱なく。
壽終の後みな解脫を蒙らん。無量壽佛の光明
顯赫にして十方を照耀す諸佛の國土に聞こ
ざるこそなし。ただ我れ今その光明を稱するの
みにあらず一切の諸佛聲聞緣覺もろもろの菩

薩衆も咸く共に歎譽したもうこと亦是のごこ
し。もし衆生ありて其の光明の威神功德を聞
きて日夜に稱説して至心不斷ならば。意の所
願に隨いて其の國に生ずることを得て諸の菩
薩聲聞大衆と共に歎譽して其の功德を稱せら
れん。其の然してのち佛道を得る時に至りて
普く十方の諸佛菩薩に其の光明を歎ぜられん
こと亦今のごとくならん。佛の言たまく我れ
無量壽佛の光明威神の巍巍殊妙なるを説くこ

毎日のおつとめ、晝

十

晝夜一劫すともなを未だ盡くすこゝあたわ
じ。



◎晝のおつとめ

はじめに奉請

一心奉請、阿彌陀佛等、一切三寶、願入道場、
受我供養。(三邊)

つぎに呪食

曩莫薩嚩 怛佉藥哆 嚩路引枳帝 唵 三跋
羅 三跋羅吽 (七邊又は二十一邊唱へます)

つぎに呪願

此食色香味 供養奉請尊 令今施主得
無量波羅蜜



十一

◎夕のおつとめ

はじめに 懺悔

無始已來無量の罪

今世所犯極重の罪

日々夜々所作の罪

念々歩々所起の罪

念佛の威力を以て皆消滅し

命終にわ

決定して極樂に生ぜしめたまは

つぎに 一枚起請文

もろこし我てうにもろくの智者たちのさたし申さるゝ觀念の念にもあらず又學問をして

念の心をさとりて申念佛にもあらずたゞ往生極樂のためには南無阿彌陀佛と申てうたひなく往生するぞとおもひとりて申外には別の子細候はずたゞし三心四修と申事の候は皆決定して南無阿彌陀佛にて往生するぞと思ふうちにもり候なり此外におくふかき事を存せば二尊のあはれみにはづれ本願にもれ候べし念佛を信ぜん人はたこひ一代の法をよくく學すとも一文不知の愚鈍の身になして尼人道

の無智の輩に同じうして智者のふるまひをせ
ずして唯一向に念佛すべし

爲證以兩手印

淨土宗の安心起行此一紙に至極せり源空が
所存此外に全く別義を存せず滅後の邪義を
防がんに爲に所存を記し畢

建曆二年正月廿三日

源空(花押)

(右の御諱わ惶みて「大師在御判」と唱えます)

つぎに光照文

光明わ遍く十方世界を照らして念佛の衆生を
攝取して捨てたまわず

念佛一會 (お念佛を唱えるのです)

おわりに 総回向文

願くわ此功德をもつて、平等一切に施こし、
おなじく菩提心を發して 安樂國に往生せん



別時のねつとめ

◎開 白

朝、別時御念佛を初めるおつとめ

はじめに 香 偈 (佛様の前に香を焼きて)

願我身淨如香爐

願我心如智慧火

念々焚燒戒定香

供養十方三世佛

つぎに 三寶禮 (唱えつゝお禮します)

一心敬禮 十方法界 常住佛

一心敬禮 十方法界 常住法

一心敬禮 十方法界 常住僧

つぎに 四奉請

奉請十方如來 入道場 散華樂

奉請釋迦如來 入道場 散華樂

奉請彌陀如來 入道場 散華樂

奉請觀音勢至諸大菩薩 入道場 散華樂

つぎに 嘆佛偈

如來妙色身 世間無與等 無比不思議

是故今敬禮

如來色無盡

智慧亦復然

一切法常住

是故我歸依

つぎに略悔悔 (教會のおつとめのと同じ)

御十念

つぎに開經偈

無上甚深微妙法

百千萬劫難遭遇

我今見聞得受持

願解如來眞實義

つぎに誦經

佛說阿彌陀經

姚秦三藏法師鳩摩羅什奉詔譯

是のごときを我れ聞きき。一時。ほこり。舍

衛國の祇樹給孤獨園に在しまして。大比丘衆

千二百五十人と俱なりき。皆これ大阿羅漢

り衆に智識せられたり。長老長利弗摩訶目犍

連摩訶迦葉摩訶迦旃延摩訶俱絺羅離婆多周利

槃陀伽難陀阿難陀羅睺羅憍梵波提賓頭盧頗羅

墮迦留陀夷摩訶却賓那薄拘羅阿菟樓駄。かく

のごとき等の諸の大弟子あり。ならびに諸の

菩薩摩訶薩あり。文殊師利法王子阿逸多菩薩

乾陀訶提菩薩常精進菩薩かくのごとき等の諸の大菩薩。および釋提桓因等の無量の諸天大衆と俱なりき。

爾の時ほこけ長老舍利弗に告げたまわく。是れより西方十万億の佛土を過ぎて世界あり名づけて極樂とゆう。其の土に佛まします阿彌陀と號づけたてまつるいま現に在しまして説法したまえり。舍利弗かの土を何がゆえぞ名づけて極樂とする其の國の衆生もろもろの苦

あることなかつた諸の樂のみを受くゆえに極樂と名づく。

また舍利弗極樂國土にわ七重の欄楯七重の羅網ある七重の行樹あり皆これ四寶をもつて周匝し圍繞せり是のゆえに彼の國を名づけて極樂とゆう。

また舍利弗極樂國土にわ七寶の池あり八功德水その中に充滿せり池の底にわ純ら金沙を以て地に布げり。四邊に階道あり金銀瑠璃玻瓈

をもつて合成せり。上に樓閣ありまた金銀瑠璃玻瓈碑磔赤珠碼碯を以て而もこれを嚴飾せり。池の中に蓮華あり大さ車輪のごとし青色にわ青光あり黄色にわ黄光あり赤色にわ赤光あり白色にわ白光あり微妙香潔なり。舍利弗極樂國土にわ是のごとき功德莊嚴を成就せり。

また舍利弗かの佛の國土にわ常に天樂を作す。黄金を地とせり。晝夜六時に曼陀羅華を雨ら

す。其の國の衆生常に清旦を以ておのおの衣械を以て諸の妙華を盛りて他方十万億の佛を供養す。即ち食時を以て還りて本國に到りて飯食し經行す。舍利弗極樂國土にわ是のごとき功德莊嚴を成就せり。

また次ぎに舍利弗かの國にわ常に種種の奇妙なる雜色の鳥あり。白鵠孔雀鸚鵡舍利迦陵頻伽共命の鳥なり。是のもろもろの鳥晝夜六時に和雅の音を出だす其のこえ五根五力七菩提

分八聖道分かくのごとき等の法を演暢す。其の土の衆生この音を聞きおわりて皆ことごとく佛を念じ法を念じ僧を念ず。舍利弗なんち此の鳥わ實に是れ罪報の所生なりと謂うことなかれ。ゆえわいかに。彼の佛の國土にわ三惡趣なし。舍利弗その佛の國土にわなを三惡道の名もなしいかにいわんや實あらんや。是のもろもろの鳥わ皆これ阿彌陀佛の法音をして宣流せしめんと欲して變化して作したまえ

るごころなり。舍利弗かの佛の國土にわ微風ふきて諸の寶行樹および寶羅網を動かして微妙の音を出だせり。譬うれば百千種の樂を同時に俱に作すがごとし。是の音を聞く者わみな自然に念佛念法念僧の心を生ず。舍利弗その佛の國土にわ是のごとき功德莊嚴を成就せり。舍利弗なんちか意においていかに彼の佛を何がゆえぞ阿彌陀と號づけたてまつれる。舍利

弗ほつかの佛ほとけの光明こうみょう無量むりょうにして十方じつぱうの國くにを照てらし
 て障礙しょうがいするところなし是こゝのゆえに號なづけて阿あ
 彌み陀だとせり。また舍利弗しゃりふつかの佛ほとけの壽命じゆみょうおよび
 其こゝの人民にんみん無量むりょう無邊むへん阿僧祇劫あそうぎじつなり故ゆゑに阿彌陀あみだと
 名なづく。舍利弗阿彌陀佛しゃりふつあみだぶつ成佛ぶつじょうよりこのかた今いま
 において十劫じじうなり。また舍利弗しゃりふつかの佛ほとけに無量むりょう
 無邊むへんの聲聞弟子しやうもんでしありみな阿羅漢あらかんなり是れ算數さんすう
 のよく知るところにあらず。諸しよの菩薩衆ぼさつしゆも亦また
 是かくのごとし。舍利弗しゃりふつかの佛ほとけの國土こくどにわ是かくのご

とき功德莊嚴どくしやうこんを成就じやうじゆせり。

また舍利弗極樂國土しゃりふつごくらくこくどにわ衆生しゆじやうしやう生ずる者ものわ皆みなこ
 れ阿鞞跋致あびばちなり。其その中に多おほく一生補處いっしよふしよあり。
 其數そのかずはなはだ多おほし是れ算數さんすうのよく知るところ
 にあらずただ無量無邊阿僧祇劫むりょうむへんあそうぎじつをもつて説とく
 べし。舍利弗衆生聞しゃりふつしゆじやうききかん者ものわまさに發願はつがんして
 彼の國かのくにに生しやうぜんと願がんずべしゆえわいかに是かくの
 ごとき諸しよの上善人じやうぜんにんと俱ともに一處いっしよに會あすることを
 得うればなり。舍利弗少善根福德しゃりふつしやうぜんこんふくどくの因縁いんねんを以もつて

わ彼の國くにに生しょうずることを得うべからず。

舍利弗しゃりぶつもし善男子ぜんなんし善女人ぜんにょにんありて阿彌陀佛あみだぶつを説とくを聞ききて名號なごうを執持しゅうぢすること若もしわ一日いちにち若もしわ二日ににち若もしわ三日さんにち若もしわ四日しにち若もしわ五日ごにちもしわ六日ろくにち若もしわ七日ひちにち一心いっしんみだれずば。其その人ひといのち終おわる時ときに臨のぞみて阿彌陀佛あみだぶつもろもろの聖衆しょうじゆとともに現げんに其その前まえに在まします。是この人ひとおわる時ときこころ顛倒てんどうせず即すなわち阿彌陀佛あみだぶつの極樂ごくらく國土こくどに往生おうじやうすることを得えん。舍利弗しゃりぶつわれ是この

利りを見るがゆえに此この言ごを説とく若もし衆生しゆじやうありて是この説せつを聞きかん者ものわまさに發願はつがんして彼かの國こく土どに生しょうずべし。

舍利弗しゃりぶつわれいま阿彌陀佛あみだぶつの不可思議ふかしぎ功德くどくを讚さん歎たんするがごとく。東方とうほうに。また阿閼鞞佛あしやくびぶつ須彌しゆみ相佛そうぶつ大須彌佛だいしゆみぶつ須彌光佛しゆみくわうぶつ妙音佛みやうおんぶつかくのごとき等の恆河沙數こうさすうの諸佛しよぶつまします。おのおの其その國くににおいの廣長くわうぢやうの舌相ぜつそうを出いだして徧あまねく三千大千さんぜんたいせん世界せかいを覆おいて誠實じやうじつの言ごを説ときたもう。汝なんぢら衆しゆ

生じやうままさに是この稱讚しやうさん不可思議ふか功德くどく一切いっ諸佛しよぶつ所護しよご
念經ねんぎやうを信しんすべし。

舍利弗しやりふつ南方なんほう世界せかいに。日月燈佛にちがつとうぶつ名聞光佛みやうもくこうぶつ大焰肩たいえんけん
佛ぶつ須彌燈佛しゆみだうぶつ無量精進佛むりやうしやうじんぶつかくのごとき等の恆河こうが
沙數しゃすうの諸佛しよぶつまします。おのおの其その國くににおい
て廣長こうちやうの舌相せつさうを出いだして徧あまねく三千大千世界さんぜんたいせんせかいを
覆おいて誠實じやうじつの言ことを説ときたもう。汝なんぢら衆生しゆじやうままさに
是この稱讚しやうさん不可思議ふか功德くどく一切いっ諸佛しよぶつ所護しよご念經ねんぎやうを
信しんすべし。

舍利弗しやりふつ西方ほうさい世界せかいに。無量壽佛むりやうじゆぶつ無量相佛むりやうさうぶつ無量幢むりやうちやう
佛ぶつ大光佛だいかうぶつ大明佛だいめいぶつ寶相佛ほうさうぶつ淨光佛じやうかうぶつかくのごとき等らう
の恆河沙數こうがしゃすうの諸佛しよぶつまします。おのおの其その國くに
において廣長こうちやうの舌相せつさうを出いだして徧あまねく三千大千さんぜんたいせん
世界せかいを覆おいて誠實じやうじつの言ことを説ときたもう。汝なんぢら衆しゆ
生じやうままさに是この稱讚しやうさん不可思議ふか功德くどく一切いっ諸佛しよぶつ所護しよご
念經ねんぎやうを信しんすべし。

舍利弗しやりふつ北方ほうほう世界せかいに。焰肩佛えんけんぶつ最勝音佛さいしやうおんぶつ難沮佛なんそぶつ日にっ
生佛じやうぶつ網明佛みやうめいぶつかくのごとき等の恆河沙數こうがしゃすうの諸佛しよぶつ

まします。おのおの其の國において廣長の舌相を出だして徧く三千大千世界を覆いて誠實の言を説きたもう。汝ら衆生まさに是の稱讚不可思議功德一切諸佛所護念經を信すべし。舍利弗下方世界に。師子佛名聞佛名光佛達摩佛法幢佛持法佛かくのごとき等の恆河沙數の諸佛まします。おのおの其の國において廣長の舌相を出だして徧く三千大千世界を覆いて誠實の言を説きたもう。汝ら衆生まさに是の

稱讚不可思議功德一切諸佛所護念經を信すべし。

舍利弗上方世界に。梵音佛宿王佛香上佛香光佛大焰肩佛雜色寶華嚴身佛沙羅樹王佛寶華德佛見一切義佛如須彌山佛かくのごとき等の恆河沙數の諸佛まします。おのおの其の國において廣長の舌相を出だして徧く三千大千世界を覆いて誠實の言を説きたもう。汝ら衆生まさに是の稱讚不可思議功德一切諸佛所護念經

を信ずべし。
 舍利弗なんぢが意においていかに何が故ぞ名
 けて一切諸佛所護念經とする。舍利弗もし善
 男子善女人ありて是の諸佛所説の名および經
 の名を聞かん者わ。是の諸の善男子善女人み
 な一切諸佛に共に護念せられてみな阿耨多羅
 三藐三菩提を退轉せざることを得ん。是のゆ
 ゑに舍利弗なんぢら皆まさに我語および諸佛
 の所説を信受すべし。舍利弗もし人ありて已

に發願しいま發願し當に發願し阿彌陀佛國に
 生ぜんと欲せん者わ是の諸人等みな阿耨多羅
 三藐三菩提を退轉せざることを得て彼の國土
 において若しわ已に生じ若しわいま生じ若し
 わ當に生ぜん。是のゆゑに舍利弗もるもるの
 善男子善女人もし信ずることあらん者わまさ
 に發願して彼の國土に生ずべし。
 舍利弗われいま諸佛の不可思議功德を稱讚す
 るかごとく彼の諸佛等もまた我が不可思議功

徳を稱説して是の言を作したまわく釋迦牟尼
 佛よく甚難希有の事を爲してよく娑婆國土の
 五濁惡世の劫濁見濁煩惱濁衆生濁命濁の中に
 おいて阿耨多羅三藐三菩提を得て諸の衆生の
 爲に是の一切世間難信の法を説くと。舍利弗
 まさに知るべし我れ五濁惡世において此難事
 を行じて阿耨多羅三藐三菩提を得て一切世間
 の爲に此の難信の法を説く是を甚難とす。佛
 この經を説きおわりたもうに。舍利弗および

諸の比丘一切世間天人阿修羅等。ほとけの所
 説を聞きたてまつりて歡喜し信受して禮を作
 して去りき。

佛説阿彌陀經

つぎに回向偈

十方恒沙佛

六通證知我

今乘二尊教

廣開淨土門

御十念

つぎに六念法

念佛救世大慈父

念法出離解脫門

念僧諸有良福田

念戒無上菩提本

念施具足波羅蜜

念天護法利群生

回願往生無量壽國

つぎに光照の文

光明遍照

十方世界

念佛衆生

攝取不捨

御念佛

つぎに三歸禮

(お禮します)

歸佛得菩提

道心恒不退

願共諸衆生

回願往生無量壽國

歸法薩婆若

得大總持門

願共諸衆生

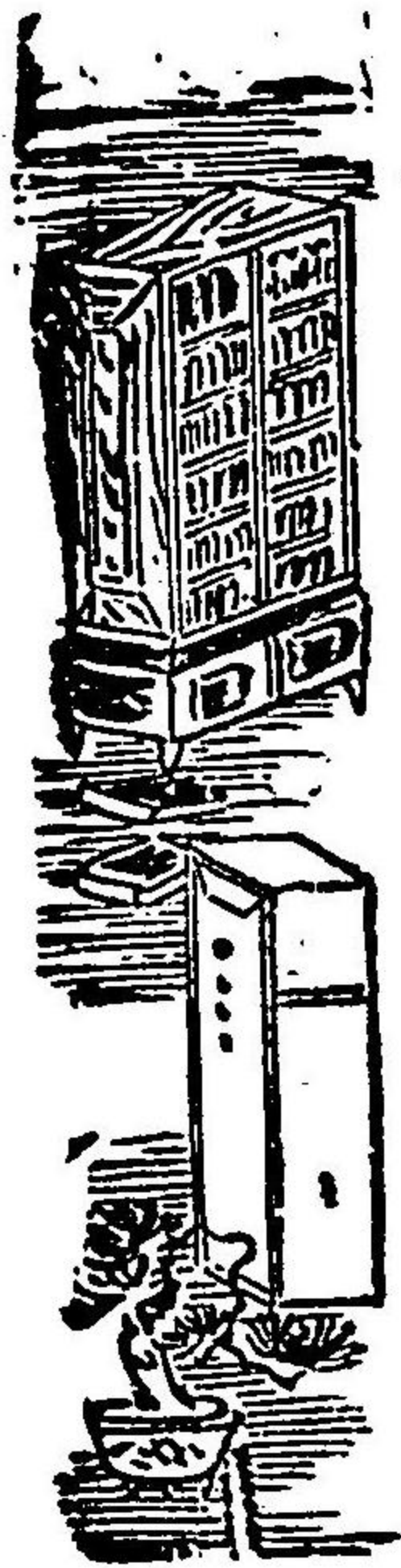
回願往生無量壽國

歸僧息諍論

同入和合海

願共諸衆生

回願往生無量壽國



別時のおつとめ、晝

◎献 供

晝、御飯等御供養のおつとめ

はじめに 奉 請 毎日のひるのおつとめと同じ

つぎに 咒 食 同じ

つぎに 咒 願 同

御 十 念

つぎに 開 題 偈

念念思聞淨土教

文文句句誓當勤

億想長時流浪苦

專心聽法入真門

つぎに 誦 經

佛說觀無量壽經佛身觀文 (此一行は讀ますによろしい)

佛告阿難及韋提希此想成已次當更觀無量壽佛身相光明阿難當知無量壽佛身如百千万億夜摩天閻浮檀金色佛身高六十万億那由他恆河沙由旬眉間白毫右旋婉轉如五須彌山佛眼如四大海水青白分明身諸毛孔演出光明如須彌山彼佛圓光如百億三千大千世界於圓光中有百万億那由他恆河沙化佛一一化佛亦有衆多無數化菩薩以

爲侍者無量壽佛有八万四千相一一相各有八万
 四千隨形好一一好復有八万四千光明一一光明
 徧照十方世界念佛衆生攝取不捨其光明相好及
 與化佛不可具說但當憶想令心眼見見此事者即
 見十方一切諸佛以見諸佛故名念佛三昧作是觀
 者名觀一切佛身以觀佛身故亦見佛心佛心者大
 慈悲是以無緣慈攝諸衆生作此觀者捨身他世生
 諸佛前得無生忍是故智者應當繫心諦觀無量壽
 佛觀無量壽佛者從一相好入但觀眉間白毫極令

明了見眉間白毫者八万四千相好自然當現見無
 量壽佛者即見十方無量諸佛得見無量諸佛故諸
 佛現前授記是爲徧觀一切色身想名第九觀作此
 觀者名爲正觀若他觀者名爲邪觀

つぎに回向偈

彌陀本誓願 極樂之要門 定散等回向

速證無生身

御十念

つぎに三尊の禮讚 (譜が後にあります)

南無至心歸命禮西方阿彌陀佛

彌陀身色如金山

相好光明照十方

唯有念佛蒙光攝

當知本願最為強

六方如來舒舌證

專稱名號至西方

到彼華開聞妙法

十地願行自然彰

願共諸衆生

往生安樂國

南無至心歸命禮西方阿彌陀佛

觀音菩薩大慈悲

已得菩提捨不證

一切五道內身中

六時觀察三輪應

應現身光紫金色

相好威儀轉無極

恒舒百億光王手

普攝有緣歸本國

願共諸衆生

往生安樂國

南無至心歸命禮西方阿彌陀佛

勢至菩薩難思議

威光普照無邊際

有緣衆生蒙光觸

增上智慧超三界

法界傾搖如轉蓬

化佛雲集滿虛空

普勸有緣常憶念

永絕胞胎證六通

願共諸衆生

往生安樂國

南無至心歸命禮西方阿彌陀佛

哀愍覆護我

令法種增長

此世及後生

願佛常攝受

願共諸衆生

往生安樂國

南無至心歸命禮西方極樂世界觀音勢至諸菩薩

清淨大海衆

願共諸衆生

往生安樂國

普爲師僧父母及善知識法界衆生斷除三障同得

往生阿彌陀佛國歸命懺悔

至心懺悔

南無懺悔十方佛

願滅一切諸罪根

今將久近所修善

回作自他安樂因

恒願一切臨終時

勝緣勝境悉現前

願觀彌陀大悲主

觀音勢至十方尊

仰願神光蒙授手

乘佛本願生彼國

懺悔回向發願已至心歸命阿彌陀佛

禮懺諸切德

願臨命終時

見無量壽佛

無邊功德身

我及餘信者

既見彼佛已

願得離垢眼

往生安樂國

成無上菩提

禮懺已一切恭敬

乃至

願諸衆生三業清淨奉持佛教和南一切賢聖願共
諸衆生回願往生無量壽國

つぎに無常偈

諸衆等聽きたまえ日中無常の偈を説かん
人生けるととき精進せざれば喩えば樹の根無き
がごとし、華を採つて日中に置かんに能く幾
時か鮮かなることを得ん、人命も亦是の如く
無常須臾の間なり、諸の行道衆を勸む勤修し
て乃ち真に至りたまえ

((譜の一))
三尊禮

(最も緩かに)
(ハ)調 $\frac{4}{4}$

○	2. 3 3 3 3	3 3 3 -
南無至心歸命禮	西方阿彌陀	陀佛
○	3 4 4 3	4 3 3 3 2
彌陀身色 觀音菩薩 勢至菩薩	如金山 大悲議 大難思	相好光明 已得菩提 威光普照
2 3 3 7	3 3 3 34	2 3 3 1
照十方 捨不證 無邊際	唯有一 有緣衆 生	蒙光攝 內身中 蒙光觸
7 7 7 3 34	1 7 7 7	3 3 3 23
當知本願 六時觀察 增長智慧	最爲強 三輪三界 超三	六方如來 應現身 法界傾
3 4 4 3	4 3 3 32	2 3 3 7
舒舌證 紫金色 如轉蓬	專稱名 相好威 化佛雲	至四方 轉無極 滿虛空

((譜 の 三))

3̣. 3̣ 3̣ -	7̣- 3̣-	3- 1-
願 ン 共 -	諸	衆
7- 0 6 6	6 6 6 6	6- 0 0
生 往	生 安 樂 コ	ク
○	6 7 77 77	7 77 2 3
南無至心歸命禮	西 方 極 樂	世 界 觀 音
3 33 34 i	7 77 7 7	i i7 6.7
勢 至 諸 -	菩 薩 清 淨	大 海 衆 -
7 4 7 7	6 7# 4 6	6 7 7 7
願 共 諸 衆	生 往 生 安	樂 - コク
○	7 7 7 77	7 7 7 77
普為師僧父母	及 善 智 識	法 界 衆 生
2̣ 3̣ 3̣ 3̣	34̣ i1̣ 77	77 7 6 67
斷 除 三 障	同 得 往 生	阿 彌 陀 佛 國

((譜 の 二))

3. 3 3 34	2 3 3 1	7. 77 3 34
到 彼 華 開	聞 妙 法 -	十 地 願 行
恒 舒 百 億	光 王 手 -	普 攝 有 緣
普 勸 有 緣	常 憶 念 -	永 絕 胎 胎
1 7 2.3	3. 3 3 3	3 4 4 2
自 然 彰 -	願 共 諸 衆	生 往 生 安
歸 本 國 -		
證 六 通 -		
.2. 3 3 3		
樂 國 - -		
○	2.3 3 33	3 3 3 -
南無至心歸命禮	四 方 阿 彌	陀 佛
○	3 3 3 3	3-4 3
哀 愍 覆 護 我	令 法 種 增	長 此 世
4 1 7 7	3 34 1 7	2.3 3 -
及 後 生 -	願 佛 常 攝	受

((譜 の 五))

7 i i 7 2 3 3 3 3 4 i 77	十方ッン	仰願神光	蒙授手
7 77 7 77 i i7 6 67 7#4 7 7	乘佛本願	生彼コク	懺悔回向
77 7.4 6 6. 6 6 6 7 7 7. 7	ホッ願已至	心ン歸命	阿彌陀佛
0 2 3 34 i7 77 7 7 —	禮懺諸功德	願臨命終	時一見無
i 7 6 77 7#4 47 ii i 7 2 3	量壽アーツ	無邊功ドク	身ン我及
34 i 77 7 7 i i7 6 7 7#4 4	餘信者一	既見彼佛	知一願得
7 7 6 7 74 4 6 6 7 7 7 —	塵垢眼ン	往生一安樂	—コク—

((譜 の 四))

2 2 3 3i 7 7 7 0	歸命懺	悔
0	至心懺悔	
0 7 7 7 77 7 77 7 77	南無懺悔	十方アーツ 願滅一切
i i7 67 7#4 7 7 i i7 6 77	諸罪根ン	今將久近 諸一シユセシ
7#4 7 7 7 ii i 7 2 3 3 3	回作自他	安ラク因ン 恒願一切
34 i i 7 7 7 7 77 ii i7 6 77	リシユウ時	勝縁勝境 悉現セン
7#4 7 7 i i7 6 7 7#4 7 77	願睹彌陀	大悲一シウ 觀音勢イ至

((譜の六))

2̇ 3̇ - 3̇	3̇ 4̇ 1̇ 7̇ -	
成ヲ無	上ヲ菩提	
0	0	0
禮儀已一切	恭敬乃至	願諸衆生
0	0	6 7 7 7
三業清淨	奉持佛教	和南一切
7 7 7. 7	1̇ 1̇ 7̇ 6 7	7 4 7 6 7
賢聖願共	諸衆生	回願往生
4 4 4 4 4		
無量壽		

御念佛

つぎに三唱禮 (禮拜します)

南無阿彌陀佛	南無阿彌陀佛	南無阿彌陀佛
南無阿彌陀佛	南無阿彌陀佛	南無阿彌陀佛
南無阿彌陀佛	南無阿彌陀佛	南無阿彌陀佛



◎結行

夕、仕舞のおつとめ

はじめに懺願

至心に懺悔す

無始に身を受けてよりこの來た、恒に十惡を以て衆生に加う、父母に孝せず三寶を謗じ、五逆不善の業を造作す、是の衆罪の因縁を以ての故に、妄想顛倒して纏縛を生ず、應に無量生死の苦を受くべし、頂禮して懺悔す願く

わ滅除したまえ、懺悔し已んぬ至心に阿彌陀

佛に歸命したてまつる

至心に勸請したてまつる

諸佛大慈無上尊、恒に空慧を以て三界を照したもう、衆生盲冥にして覺知せず、永く生死の大苦海に没む、群生を抜いて諸の苦を離れしめんが爲めに、勸請したてまつる常に住して法輪を轉じたまえ、勸請し已んぬ至心に阿彌陀佛に歸命したてまつる

至心に隨喜す

歷劫より以來嫉妬を懷く、我慢放逸癡に由て生ず、恒に瞋恚毒害の火を以て、智慧慈善根を焚燒す、今日思惟し始めて惺悟して、大精進隨喜の心を發す、隨喜し已んぬ至心に阿彌陀佛に歸命したてまつる

至心に回向す

三界の内に流浪して、癡愛をもつて胎獄に入り、生じ已つて老死に歸して、苦海に沈没す、

我れ今此の福を修す、回して安樂土に生ぜん、回向し已んぬ至心に阿彌陀佛に歸命したてまつる

至心に發願す

願くわ胎藏の形を捨てて、安樂國に往生し、速に彌陀佛の無邊功德身を見たてまつらん、諸の如來賢聖を觀たてまつらんとも亦復然ふり、六神通の力を獲て、苦の衆生を救攝せん、虚空法界盡きんや、我が願も亦是の如くらな

ん、發願し已んぬ至心に阿彌陀佛に歸命した
てまつる

つぎに誦 經

佛說無量壽經四誓偈 (此一行を讀ますによろしい)

我建超世願 必至無上道 斯願不滿足 誓不
成正覺 我於無量劫 不爲大施主 普濟諸貧
苦 誓不成正覺 我至成佛道 名聲超十方
究竟靡所聞 誓不成正覺 離欲深正念 淨慧
修梵行 志求無上道 爲諸天人師 神力演大

光 普照無際土 消除三垢冥 廣濟衆厄難
開彼智慧眼 滅此昏盲闇 閉塞諸惡道 通達
善趣門 功祚成滿足 威曜朗十方 日月戢重
暉 天光隱不現 爲衆開寶藏 廣施功德寶
常於大衆中 說法師子吼 供養一切佛 具足
衆德本 願慧悉成滿 得爲三界雄 如佛無礙
智 通達靡不照 願我功慧力 等此最勝尊
斯願若剋果 大千應感動 虛空諸天人 當雨
珍妙華

つぎに 精靈回向文

一切精靈生極樂 上品蓮臺成正覺 菩提
行願不退轉 引導三有及法界

御十念

つぎに 發願文

至心に發願す
願くわ弟子等、命終の時に臨んで、心顛倒せず、心錯亂せず、心失念せず、身心に諸の苦痛無く、身心快樂にして、禪定に入るがごと

く、聖衆現前したまひ、佛の本願に乗じて、阿彌陀佛國に上品往生せしめたまえ、彼の國に到り已つて、六神通を得て、十方界に入りて、苦の衆生を救攝せん、虚空法界盡きんや我願も亦是の如くならん、發願し己んぬ、至心に阿彌陀佛に歸命したてつまる

御念佛

つぎに 総回向文

願以此功德 平等施一切 同發菩提心

往生安樂國

御十念（又いろいろの回向もします）

つぎに小消息（圓光大師様の御法話です）

末代の衆生を往生極樂の機にあてて見るに、
行すくなしこて疑べからず一念十念に足ぬべ
し、罪人なりとても疑べからず罪根ふかきを
もきらはじとの給へり、時くだれりとても疑
べからず法滅以後の衆生なをもて往生すべし
況近來をや、我身わろしとても疑べからず自

身はこれ煩惱具足せる凡夫也との給へり、十
方に淨土おほげれど西方を願は十惡五逆の衆
生の生るる故なり、諸佛のなかに彌陀に歸し
たてまつるは三念五念に至るまでみづから來
迎し給故あり、諸行の中に念佛を用るはかの
佛の本願なる故也、いま彌陀の本願に乗じて
往生しなんに願として成ぜずと云事あるべか
らず、本願に乗ずる事は信心のふかきによる
べし、うけがたき人身をうけてあひがたき本

願にあひておこしむたき道心を發してはなれ
 ぐたき輪廻の里をはなれて生れむたき淨土に
 往生せん事悦の中の悦なり、罪は十惡五逆の
 者も生ずと信じて少罪をも犯さじと思へし罪
 人なをむまる況や善人をや、行は一念十念な
 をむなしからずと信じて無間に修すべし一念
 なを生る況や多念をや、阿彌陀佛は不取正覺
 の言を成就して現に彼國にましますれば定で命
 終の時は來迎し給はん、釋尊は善哉我教に隨

て生死を離と知見し給ひ、六方の諸佛は悦哉
 我證誠を信じて不退の淨土に生と悦給らん
 と、天に仰ぎ地に臥て悦べしこのたび彌陀の
 本願にあふ事を、行住坐臥にも報ずべしかの
 佛の恩徳を、頼ても頼べきは乃至十念の詞、
 信じても猶信ずべきは必得往生の文也

つぎに誓願偈

誓到彌陀安養界 還來穢國度人天
 願我慈悲無際限 長時長劫報慈恩

つぎに三敬禮

一心敬禮南無西方極樂世界本願成就身
阿彌陀佛

一心敬禮南無西方極樂世界光明攝取身
阿彌陀佛

一必敬禮南無西方極樂世界來迎引接身
阿彌陀佛

おわりに送佛偈

請佛隨緣還本國 普散香華心送佛

願佛慈心遙護念

同生相勸盡須來

御十念

おわり



諸經要文

(一) 國家祈禱之文 (國家、又わ 玉体安全の御祈禱に唱えます)
 天下和順 日月清明 風雨以時 災厲不起 國豐民安 兵戈無用
 崇德興仁 務修禮讓

(二) 神祇祈願之文 (神前にて唱へます) 多くわ心經を讀みまして
 清淨慈門刹塵數 共生如來一妙相 一一諸相莫不然 是故見者無厭足

(三) 同じく (右におなじ)
 神力演大光 普照無際土 消除三垢冥 廣濟衆厄難

(四) 祖師及高祖回向文 (祖師方の御回向に唱えます)
 自信教人信 難中轉更難 大悲傳普化 眞成報佛恩

(五) 能化回向文 (僧侶一和尚已上の一回向に唱えます)
 諸世界如虛空 如蓮華不著水 心清淨超於彼稽 稽首禮無上尊

(六) 念佛降魔讚 (回向にも「願以此功德」の代りにも唱えます)
 門々不同八萬四 爲滅無明果業因 利劍即是彌陀號 一聲稱念罪皆除

(七) 破地獄之偈 (普通に回向の時に唱えます)
 其佛本願力 聞名欲往生 皆悉到彼國 自致不退轉

(八) 敬禮伽陀文 (御釋迦様を拜む時に唱えます)
 敬禮天人大覺尊 恒沙福智皆圓滿 因圓果滿成正覺 住壽凝然無去來

(九) 香讚 (願我身淨の代りに唱えます)
 願此香煙雲 徧滿十方界 供養一切佛 尊法諸賢聖 無邊佛土中

受用作佛事 普薰諸衆生 同生安樂刹

(十) 三奉請 (奉請十方如來)の代りに唱えます
 奉請彌陀世尊入道場 奉請釋迦如來入道場 奉請十方如來入道場
 過現諸佛等靈儀 人天龍鬼中法藏 全身碎身眞舍利 我今合掌皆供養

(十一) (願以此功德の代りに唱えます)

讚佛諸功德 無有分別心 能令速滿足 功德大寶海

(十二) (請佛隨緣還本國の代りに唱えます)

如來の本誓わ一毫も謬りたまわず、願くわ佛決定し我等を引接したまへ。

(十三) 廣懺悔

敬白 十方諸佛十二部經諸大菩薩、一切賢聖、及一切天龍八部、法界衆生、現前大衆等證知、我發露懺悔、從無始已來、乃至今身、殺害一切三寶、師僧父母、六親眷屬、善智識、法界衆生、不可知數、偷盜一切三寶、師僧父母、六親眷屬、善智識、法界衆生、不可知數、於一切三寶、師僧父母、六親眷屬、善智識、法界衆生、起邪心不可知數、妄語欺誑一切三寶、師僧父母、六親眷屬、善智識、法界衆生、不可知數、綺語調時一切三寶、師僧父母、六親眷屬、善智識、法界衆生、不可知數、惡口罵辱誹謗毀訾一切三寶、師僧父母、六親眷屬、善智識、法界衆生、不可知數、

兩舌鬪亂破壞一切三寶、師僧父母、六親眷屬、善智識、法界衆生、不可知數、或破五戒、八戒、十戒、十善戒、二百五十戒、五百戒、菩薩三聚戒、十無盡戒、乃至一切戒、及一切威儀戒等自作教他、見作隨喜、不可知數、如是等衆罪、亦如十方大地無邊、微塵無數、我等作罪、亦復無數、虛空無邊、我等作罪、亦復無邊、方便無邊我等作罪、亦復無邊、法性無邊、我等作罪、亦復無邊、法界無邊我等作罪、亦復無邊、衆生無邊我等劫奪殺害亦復無邊、三寶無邊我等侵損劫奪殺害亦復無邊、戒品無邊我等毀犯亦復無邊、如是等衆罪、上至諸菩薩下至聲聞緣覺、所不能知、唯佛與佛、乃能知我罪之多少、今於三寶前法界衆生前、發露懺悔、不敢覆藏、唯願十方三寶、法界衆生、受我懺悔、憶我清淨、始從今日、願共法界衆生、捨邪歸正、發菩提心、慈心相向、佛眼相看、菩提眷屬、作眞善智識、同生阿彌陀佛國、乃至成佛、如是等罪、永斷相續、更不敢作、懺悔已、至心歸命阿彌陀佛

(此お經の次に務必す略懺悔の文を唱えます)

(十四) 日沒禮讚 (夕のおつとめの時の禮讚です)

下南無釋迦牟尼佛等一切三寶我今稽首禮回願往生無量壽國
南無十方三世盡虛空徧法界微塵刹土中一切三寶我今稽首禮回願往
生無量壽國

南無西方極樂世界阿彌陀佛 願共衆生咸歸命 故我頂禮生彼國
無量光佛 中 無邊光佛 無礙光佛 無對光佛 炎王光佛
上清淨光佛 歡喜光佛 智慧光佛 不斷光佛 下難思光佛
無稱光佛 超日月光佛

上阿彌陀佛 哀愍覆護我 令法種增長 此世及後生 願佛常攝受
觀世音菩薩 大勢至菩薩 下諸菩薩清淨大海衆

普爲師僧父母已下わ日中禮讚(三尊禮)の通りです

諸衆等聽きたまえ日沒無常の偈を説かん
人間恩々として衆務を營んで年命の日夜に去ることを覺らず、燈の風

中に滅えなんこと期し難きが如く忙々たる六道定趣無し、未だ解脱し
て苦海を出づることを得ずいかなぞ安然として驚懼せざる、各聞け強
健有力の時自策自勵して常住を求めよ

(十五) 初夜禮讚

南無至心歸命禮西方阿彌陀佛(文左の如し)願共諸衆生 往生安樂國

下彌陀智願海 深廣無涯底 聞名欲往生 皆悉到彼國

於此世界中 六十有七億 不退諸菩薩 皆當得牛彼

小行諸菩薩 及修少福者 其數不可計 皆當得生彼

十方佛刹中 菩薩比丘衆 窮劫不可計 皆當得生彼

一切諸菩薩 各齋天妙華 寶香無價衣 供養彌陀佛

咸然奏天樂 暢發和雅音 歌嘆最勝尊 供養彌陀佛

中慧日照世間 消除生死雲 恭敬繞三帀 稽首彌陀尊

見彼嚴淨土 微妙難思議 因發無上心 願我國亦然

應時無量尊 動容發欣笑 口出無數光 徧照十方國
 回光圍繞身 三巾從頂入 一切天人衆 踴躍皆歡喜
 梵聲如雷震 八音暢妙響 十方來正士 吾悉知彼願
 至彼嚴淨國 便速得神通 必於無量尊 受記成等覺
 奉持億如來 飛化徧諸刹 恭敬歡喜去 還到安養國
 上若人無善本 不得聞佛名 憍慢弊懈怠 難以信此法
 宿世見諸佛 則能信此事 謙敬聞奉行 踴躍大歡喜
 其有得聞彼 彌陀佛名號 歡喜至一念 皆當得生彼
 設滿大千火 直過聞佛名 聞名歡喜讚 皆當得生彼
 下 萬年三寶滅 此經住百年 爾時聞一念 皆當得生彼
 佛世甚難值 人有信慧難 遇聞希有法 此復最爲難
 自信教人信 難中轉更難 大悲傳普化 眞成報佛恩
 哀愍覆護我已下 日中禮讚(三尊禮)の通りです

諸衆等聽きたまへ初夜無常の偈を説かん
 煩惱深うして底無く生死の海邊り無し、苦を度るの船未だ立せずいか
 んぞ楽しんで睡眠せん、勇猛に勤めて精進し心を攝して常に禪に在きた
 まえ

(十六) 後夜禮讚偈

世尊我一心 歸命盡十方 無礙光如來 與佛教相應 觀彼世界相
 勝過三界道 究竟如虛空 廣大無邊際 正道大慈悲 出世善根生
 淨光明滿足 如鏡日月輪 備諸珍寶性 具足妙莊嚴 無垢光焰熾
 明淨曜世間 寶華千萬種 彌覆池流泉 微風動華葉 交錯光亂轉
 宮殿諸樓閣 觀十方無礙 雜樹異光色 寶欄徧圍繞 無量寶交絡
 羅網徧虛空 種々鈴發響 宣吐妙法音 梵音悟深遠 微妙聞十方
 正覺阿彌陀 法王善住持 如來淨華衆 正覺華化生 愛樂佛法味
 禪三昧爲食 永離心身惱 受樂常無間 大乘善根界 等無譏嫌名

女人及根缺 二乘種不生 衆生所願樂 一切能滿足 無量大寶王
 微妙淨華臺 相好光一尋 色像超群生 天人不動衆 清淨智海生
 如須彌山王 勝妙無過者 天人丈夫衆 恭敬繞瞻仰 雨天樂華衣
 妙香等供養 安樂國清淨 常轉無垢輪 一念及一時 利益諸群生
 讚佛諸功德 無有分別心 能令速滿足 功德大寶海

(十七)

晨朝禮讚偈

法藏因彌遠 極樂果還深 異珍參作地 衆寶間爲林 華開希有色
 波揚寶相音 何當蒙授手 一途往生心 濁世難還入 淨土願逾深
 金繩直界道 珠網縵垂林 見色皆眞色 聞音悉法音 莫謂西方遠
 唯須十念心 已成窮理聖 眞有徧空威 在西時現小 但是暫隨機
 葉珠相映飾 砂水共激輝 欲得無生果 彼土必須依 五山毫獨朗
 寶手印恒分 地水俱爲鏡 香華同作雲 業深成易往 因淺實難聞
 必望除疑惑 超然獨不群 心帶眞慈滿 光合法界團 無緣能攝物

有相定非難 華隨本心變 宮移身自安 稀聞出世境 須共入禪看
 回向漸爲功 西方路稍通 寶幢承厚地 天香入遠風 開華重布水
 覆網細分空 願生何意切 正爲樂無窮 欲選當生處 西方最可歸
 間樹開重閣 滿道布鮮衣 香飯隨心至 寶殿逐身飛 有緣皆得入
 正自往人希 十却道先成 嚴界引群萌 金砂徹水照 玉葉滿枝明
 鳥本珠中出 人唯華上生 敢請西方聖 早晚定相迎 十方諸佛國
 盡是法王家 徧求有緣地 冀得早無邪 八功如意水 七寶自然華
 於彼心能係 當必往非除 淨國無衰變 一立古今然 光臺千寶合
 音樂八風宣 池多說法鳥 空滿散華天 得生不畏退 隨意既開蓮
 坐華非一像 聖衆亦難量 蓮開人獨處 波生法自揚 無災由處靜
 不退爲朋良 問彼前生輩 來斯幾劫強 光舒救毘舍 空立引章提
 天來香蓋捧 人去寶衣齋 六時聞鳥合 四寸踐華低 相看無不正
 豈復有長迷 普勸弘三福 威令滅五燒 發心功已至 係念罪便消

鳥華珠光轉	風好樂聲調	但忻行道易	寧愁聖果遙	珠色仍爲水
金光即是臺	到時華自散	隨願華還開	遊池更出沒	飛空互往來
直心能向彼	有善併須回	洗心甘露水	悅目妙華雲	同生機易識
等壽量難分	樂多無廢道	聲遠不妨聞	如何貪五濁	安然火自焚
臺裏天人現	光中侍者看	懸空四寶閣	臨廻七重欄	疑多邊地久
德少上生難	且莫論餘願	西方已心安	六根常合道	三塗永絕名
念頃遊方徧	還時得忍成	地平無極廣	風長是處清	寄言有心輩
千輪明足下	五道現光中	悲引恒無絕	人歸亦未窮	口宣猶在定
心靜更飛通	聞名皆願往	日發幾華叢	慧力標無上	身光備有緣
動搖諸寶國	侍坐一金蓮	鳥群非實鳥	天類豈眞天	須知求妙樂
會是戒香全				

(十八) 歎佛之偈

光顏巍巍 威神無極 如是饒明 無與等者 日月摩尼 珠光燄耀

皆悉隱蔽	猶若聚墨	如來容顏	超世無倫	正覺大音	響流十方
戒聞精進	三昧智慧	威德無侶	殊勝希有	深誦善念	諸佛法界
窮深盡奧	究其涯底	無明忿怒	世尊永無	人雄師子	神德無量
功勳廣大	智慧深妙	光明威相	震動大千	願我作佛	齊聖法王
過度生死	靡不解脫	布施調意	戒忍精進	如是三昧	智慧爲上
吾誓得佛	普行此願	一切恐懼	爲作大安	假使有佛	百千億萬
無量大聖	數如恒沙	供養一切	斯等諸佛	不如求道	堅正不卻
譬如恒沙	諸佛世界	復不可計	無數刹土	光明悉照	徧此諸國
如是精進	威神難量	令我作佛	國土第一	其衆奇妙	道場超絕
國如泥洹	而無等雙	我當哀愍	度脫一切	十方來生	心悅清淨
已到我國	快樂安穩	幸佛信明	是我眞證	發願於彼	力精所欲
十方世尊	智慧無礙	常令此尊	智我心行	假令身止	諸苦毒中
我行精進	忍終不悔				

歎佛之偈

(十九) 服食自在之文

(多くわ畫、御飯を御供養したる時に讀む)

阿難彼佛國土、諸住生者、具足如是、清淨色身、諸妙音聲、神通功德、所處宮殿、衣服飲食、衆妙華香、莊嚴之具、猶第六天、自然之物、若欲食時、七寶盃器、自然在前、金銀瑠璃、碾磑碼碯、珊瑚琥珀、明月眞珠、如是諸盃、隨意而至、百味飲食、自然盈滿、雖有此食、實無食者、但見色聞香、意以爲食、自然飽足、身心柔軟、無所味著、事已化去、時至復現、彼佛國土、清淨安穩、微妙快樂、次於無爲、泥洹之道、其諸聲聞、菩薩天人、智慧高明、神通洞達、咸同一類、形無異狀、但因願餘方故、有天人之名、顏貌端正、超世希有、容色微妙、非天非人、皆受自然、虛無之身、無極之體

(二十) 十四行偈

道俗時衆等 各發無上心 生死甚難厭 佛法復難欣 共發金剛志
 橫超斷四流 願入彌陀界 歸依合掌禮 世尊我一心 歸命盡十方
 法性眞如海 報化等諸佛 一一菩薩身 眷屬等無量 莊嚴及變化

十地三賢海 時切滿未滿 智行圓未圓 正使盡未盡 習氣亡未亡
 功用無功用 證智未證智 妙覺及等覺 正受金剛心 相應一念後
 果德涅槃者 我等咸歸命 三佛菩薩尊 無礙神通力 冥加願攝受
 我等咸歸命 三乘等賢聖 覺佛大悲心 長時無退者 請礙遙加備
 念々見諸佛 我等思癡身 曠切來流轉 今逢釋迦佛 末法之遺跡
 彌陀本誓願 極樂之要門 定散等回向 速證無生身 我依菩薩藏
 頓教一乘海 說偈歸三寶 與佛心相應 十方恒沙佛 六通照知我
 今乘二尊教 廣開淨土門 願以此功德 平等施一切 同發菩提心
 往生安樂國

(廿一) 心經

(國の新譯又わ神前にて讀みます)

摩訶般若波羅密多心經
 觀自在菩薩、行深般若波羅密多時、照見五蘊皆空、度一切苦厄、舍利子、色不異空、空不異色、色即是空、空即是色、受想行識、亦復如是、舍利

子、是諸法空相、不生不滅、不垢不淨、不增不減、是故空中無色、無受、想行識、無眼耳鼻舌身意、無色聲香味觸法、無眼界、乃至無意識界、無無明、亦無無明盡、乃至無老死、亦無老死盡、無苦集滅道、無智亦無得、以無所得故、菩提薩埵、依般若波羅密多故、心無罣礙、無罣礙故、無有恐怖、遠離一切顛倒夢想、究竟涅槃、三世諸佛、依般若波羅密多故、得阿耨多羅三藐三菩提、故知、般若波羅密多、是大神咒、是大明咒、是無上咒、是無等等咒、能除一切苦、真實不虛、故說般若波羅密多咒、即說咒曰、揭諦揭諦、波羅揭諦、波羅僧揭諦、菩提薩訶

(廿二) 阿彌陀如來根本陀羅尼

曩謨阿囉怛曩 但囉夜耶 娜莫阿哩野 彌多婆耶 但佉孽哆夜 阿囉曷帝 三藐三沒駄耶 但彌也他 唵阿密唵帝 阿密唵妬 納婆吠 阿密唵多 三婆吠 阿密唵多 孽陸限密唵多 悉弟阿密唵多 帝際阿密

唵多 尾訖磷帝阿密唵多 尾訖磷多 誡弭寧阿密唵多 哦哦曩吉底迦 嚩 阿密唵多 嫩弩枇娑嚩嚩 薩嚩阿囉佉 娑駄寧薩嚩 羯磨訖禮捨 乞灑孕 迦嚩娑嚩賀

(廿三) 別回向文

奉酬、西方願王阿彌陀佛、大恩教主釋迦牟尼佛、六方恒沙證誠諸佛等、微塵刹土中一切三寶廣大慈恩。

又願 御歷代天皇尊儀增上御菩提 今上天皇陛下寶祚無窮 玉

體安全、又願天下太平萬民富樂、崇敬三寶歡喜增進。

又願、淨土三國傳燈列祖、別而者元祖圓光大師上酬慈恩。

又願、何何靈位(戒名)何何(祥忌又ハ年回)追福增進菩提。

又願、現前衆等、業障消滅、四大強安、臨終正念、乘彼願力、定得往生、

又願、餘勳を以て、三界萬靈、六道衆生、有緣無緣、乃至法界、平等利益。

右の外、時に應じていろくに唱えます

別回向文

(ト)調 $\frac{4}{4}$ わかれ (幼年に)

わかれ	3 - . 2 1 - 1 1 2 2 2 1
	今日の 教会も すみまし
	6 - . 0 1 1 6 6 1 - 6 -
	た — みなつれ だつて
	5 5 1 1 2 - . 0 3 3 3 2
	かえりま しよ — こんどの
	1 1 1 1 2 2 2 1 6 - . 0
	にちようも 此處にき て —
1 - 6 6 1 1 6 6 5 5 3 2	
(1) け — こや あそびも いたしま	
(2) はなしも きかせて もらいま	
1 - . 0 : 5 - 5 - 1 1 1 1 -	
しよ — みなさん ごきげんよう	
2 2 - 2 1 - . 0	
さよう な ら —	

わかれ

今日の教会もすみ
ました。皆連れ達
て歸えりましよ。
今度の日曜も此處
に来て。稽古や遊
戯も致しましよ。
話も聞かせて貰い
ましよ。皆さん
御さうげんよ。
さようナラ

(ハ)調 $\frac{2}{4}$ あつまり (幼年に)

あつまり	2 2 1 1 3 5 3 2 2 2 0
	(1) 全たい そろ うて 氣を つけ て
	(2) 其手を のげ して まえ にだ し
	3 3 5 6 1 7 6 5 6 6 0
	足兩 おみ はじ めよ 一チ ニイ 三ッ
	兩手 を あわ して むね にあ て
	3 3 5 6 5 3 5 2 2 2 0
	兩手 を つな いで まッ すぐ にし
6 6 1 2 2 1 2 6 6 5 3 2 0	
並靜 んで はな せよ いち にい さん	
か に すわ れよ いら にい さん	

あつまり

全隊揃うて 氣を付けて
足踏始めよ 一チニイ三ッ
兩手をつないで 眞直ぐに
並んで放せよ 一チニイ三ッ
其手をのばして 前に出し
兩手を合して むねにあて
心をおさめて 禮を爲し
静かにすわれよ 一チニイ三ッ

(ハ)調 $\frac{4}{4}$

降魔の剣

(歩行の時に)

1. 1 <u>3</u> . 3 <u>5</u> . 5 <u>5</u>	i 6. 6 5 0	3 3. 3 5 3
(1) ゴーマノツルギ	メキツレテ	ワガタイテキチ
(2) わがたいてきわ	みとくちと	こころのたにに
2. 2 <u>3</u> . 3 1 0	i i i 6 6 0	i i i 5 5 0
イザキラン	ケンドンノヤマ	シニノウミ
ほかならず	げんどんのつ	しんにのきば
6 5. 5 3. 3 3	5. 5 3. 3 2. 2 2	111 333 5. 5 5
マーエニタカク	シリエニフカシ	クモハツキチカクシ
ひたいにたて	くちにはとがり	ただしきちなやぶり
333 555 i. i i	2. 3 3 i	6 6 5 0
カスミヲハナチヘダツ	ヒルナチ	クヲキ
ゆうだにツれをさそ	ゆくすえ	とをき
3 5 6. 6	5 6 i 0	2. 2 3 i
ココロの	ヤミン	ヨソナチ
われらの	しんろ	よきわ
6 6 5 0	3 - 5 -	2 3 2 1 0
サラニ	アオレ	アカズ
なさん	われらの	みらい
3. 2 1 1	5. 5 5 3	5 - 5 3
イツホフミ	マヨエバ	バシホモ
いつきよこれを	うたすば	こころが
2. 2 2 3 1 0	5 5 5 6 6 6 6	i i i 2 2 2 2
サトルナシ	チシヘノミチユク	ユーイノシヨ子
れよぶなし		
3 2. 3 i i 6	i 6. 6 5 5	6. 6 5 5 3 3 3
ゴーマノツルギ	メキツレテ	ワガタイテキチ

5 3. 2 1 1	i 1. i i	2 2 i 6
イザキラン	ススメヤ	ススメヤ
5 - 3 1	2 3. 2 1 0	
ユイノ	シヨ子	

降魔の剣抜きつれて 我大敵をイザ斬らん 慳貪の
 山 瞑志の海 前に高く 後えに深し 雲わ月を隠
 くし 霞わ花を隔つ 晝猶暗き心の闇路 夜わ尙更
 にあやめも分たす 一步踏み迷えば萬歩も悟るなし 我
 大敵をイザ斬らん 進めや進め有爲の少年 我
 我大敵わ身と口と心の鬼に外ならず 慳貪の角 瞋
 患の牙 額にたてて 口にわ尖がり 正しき道を破
 り 遊惰に吾を誘う 行末遠き我等の進路 良き業
 為さん我等の未來 一擧是を撃たずば後悔及ぶなし 我
 敵の道行く有爲の少年 降魔の剣抜きつれて 我
 大敵をイザ斬らん 進めや進め有爲の少年

(=)調 $\frac{4}{4}$

佛の心

(稍遅く)
成瀬鐵治 作曲

3. 3 2 3	5. 5 3 1	2. 2 1 2	3-0
(1) ヨ ロ ツ ニ	ア マ ル	ミ ナ シ エ	ヲ
(2) ま - よ う	や み の よ	く ら け れ	ば
(3) オ - ヤ ノ	ナ サ ケ ノ	ソ コ ヒ ナ	ク
(4) さ - と る	ほ と け わ	わ が み お	や
5. 5 3 5	6. 6 5 3	2. 2 3 2	1-0
シ - ヒ ノ	イ ツ ミ ニ	ナ ガ レ イ	デ
め ぐ み の	ひ - か り	た れ た ま	い
コ - ニ ヲ	ヒ カ ル ル	コ ト ヲ リ	チ
ま よ え る	わ れ ら わ	そ の ま な	こ
1. 1 1 2	1. 1 6 1	5. 5 3 6	5-0
ア チ グ モ	タ - カ キ	ミ ス ガ タ	ヲ
ま - ど う	わ れ ら の	あ わ れ さ	に
ト ウ ト キ	ホ ト ケ ノ	ミ コ コ ロ	ヲ
な さ け の	み - ち に	ひ か さ れ	て
3. 3 2 3	5. 5 6 1	5. 3 2 3	1-0
シ - ヒ ノ	コ コ ロ ノ	シ メ シ ナ	リ
み - だ の	す が た と	あ ら わ る	れ
シ ヒ ヨ	ホ - カ ヲ	ナ カ リ ケ	リ
す - す む	わ れ ら ず	う れ し け	れ

(ハ)調 $\frac{4}{4}$

佛眼

(佛眼教會々歌)
永井幸次 作曲

1 1 3 3	2. 1 6 5	5 1 3 1	2-0
(1) ね - う な	ば ら の -	み づ の ご	と
(2) ハ - ル ノ	カ ス ミ ヤ	ア サ キ リ	ヲ
(3) い づ こ な	そ れ と -	さ だ め な	き
(4) ハ - ナ ノ	ク レ ナ イ	ア チ ヤ キ	ノ
3 3 5 5	6 6 5 3	1 3 2. 2	1-0
み どり と	ま し る に	す み わ た	る
チ - エ ニ	コ メ テ モ	サ ロ リ ナ	ク
わ れ ら の	ゆ く て の	や み じ な	ば
ミ ド リ ノ	イ - ロ ノ	ソ ノ マ マ	チ
2 2 1 2	3 3 2 3	2 5 3 6	5-0
わ が ぶ つ	げ ん わ -	て ら す な	リ
ヲ ガ フ ツ	ゲ ン ヤ -	テ ラ ス ナ	リ
わ が ぶ つ	げ ん わ -	て ら す な	リ
ヲ ガ フ ツ	ゲ ン ヤ -	テ ラ ス ナ	リ
5 5 3 6	5 5 3 3	1 3 2. 2	1-0
ひ - と の	ゆ く み ち	て ら す な	リ
パ ン リ ノ	ホ カ チ -	テ ラ ス ナ	リ
い と あ き	ら か に -	て ら す な	リ
ム カ シ モ	イ マ モ -	テ ラ ス ナ	リ

(イ) 調 $\frac{4}{4}$ 西方樂

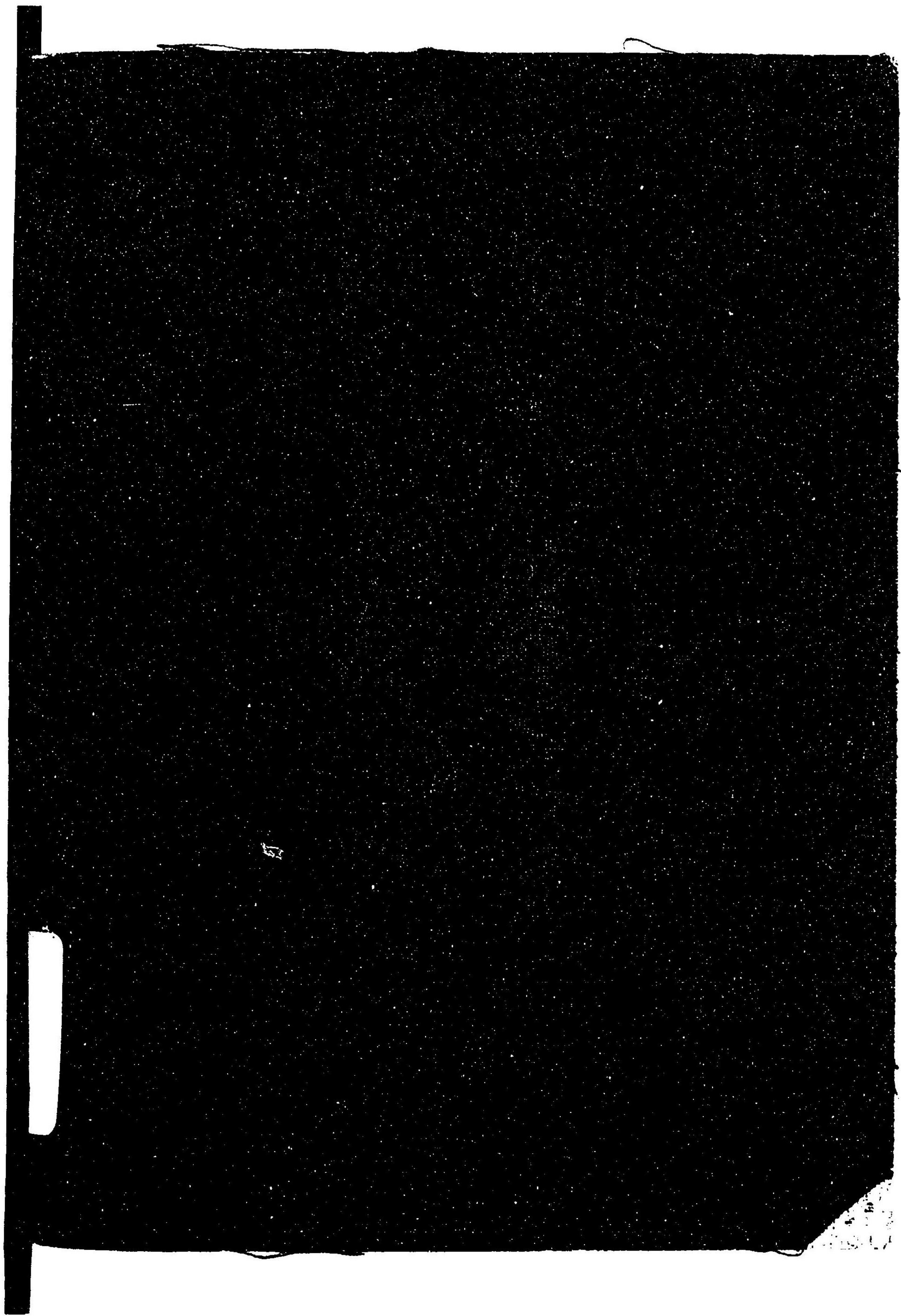
5̣ - 7̣ 7̣	6̣ 6̣ 5̣ 3̣	2̣ 2̣ 5̣ 6̣	7̣ - 0
(1) と - わ に	は な さ く	か の き し	に
(2) ト - ヲ ニ	ツ キ ス ム	カ ノ キ シ	ニ
(3) そ の は な	か - げ に	は な む し	ろ
(4) ソ ノ ツ キ	カ - ゲ ニ	タ マ ノ ユ	カ
2̣ - 7̣ 5̣	7̣ - 6̣ 6̣	7̣ 1 3 2	2̣ - 0
い さ さ な	と - り て	は な や み	ん
イ ザ サ テ	サ - シ テ	ツ キ ヤ ミ	ン
の - べ て	ま こ と の	た ら ち な	わ
シ - キ テ	マ コ ト ノ	ハ ラ カ ラ	ヲ
7̣ - 7̣ 5̣	5̣ 5̣ 3̣ 3̣	2̣ 5̣ 5̣ 7̣	6̣ - 0
こ - こ わ	あ さ か ぜ	ゆ う あ ら	し
こ - こ ヲ	ア サ ガ リ	ユ ウ ガ ス	ミ
ふ - な で	た そ し と	ま つ ら が	た
フ - ナ テ	チ ソ シ ト	ソ テ ガ ヲ	ラ
7̣ - 2̣ 3̣	7̣ 6̣ 5̣ 3̣	2̣ 2̣ 2̣ 6̣	5̣ - 0
の - ど げ	か ら じ と	ち り ん べ	し
ヤ - ス カ ラ	ザ - リ ト	ク モ ル ナ	リ
ウ - ら さ び	し - と や	ま ち ま さ	ん
ウ - チ マ	キ - テ	マ チ マ	ン

明治四十年十二月一日印刷
 明治四十年十二月十日御届

發行所 浄土宗少年會本部
 大阪市南區上之宮町浄土宗第六教務所内
 浄土宗紀念傳道第六支部

編輯兼發行人 中村正道
 大阪市南區天王寺生玉寺町三百五十八番屋敷

253
635



017479-000-6

特61-29

おきょう

浄土宗少年会本部／編

M40.12

ABF-0246



253
635

12

